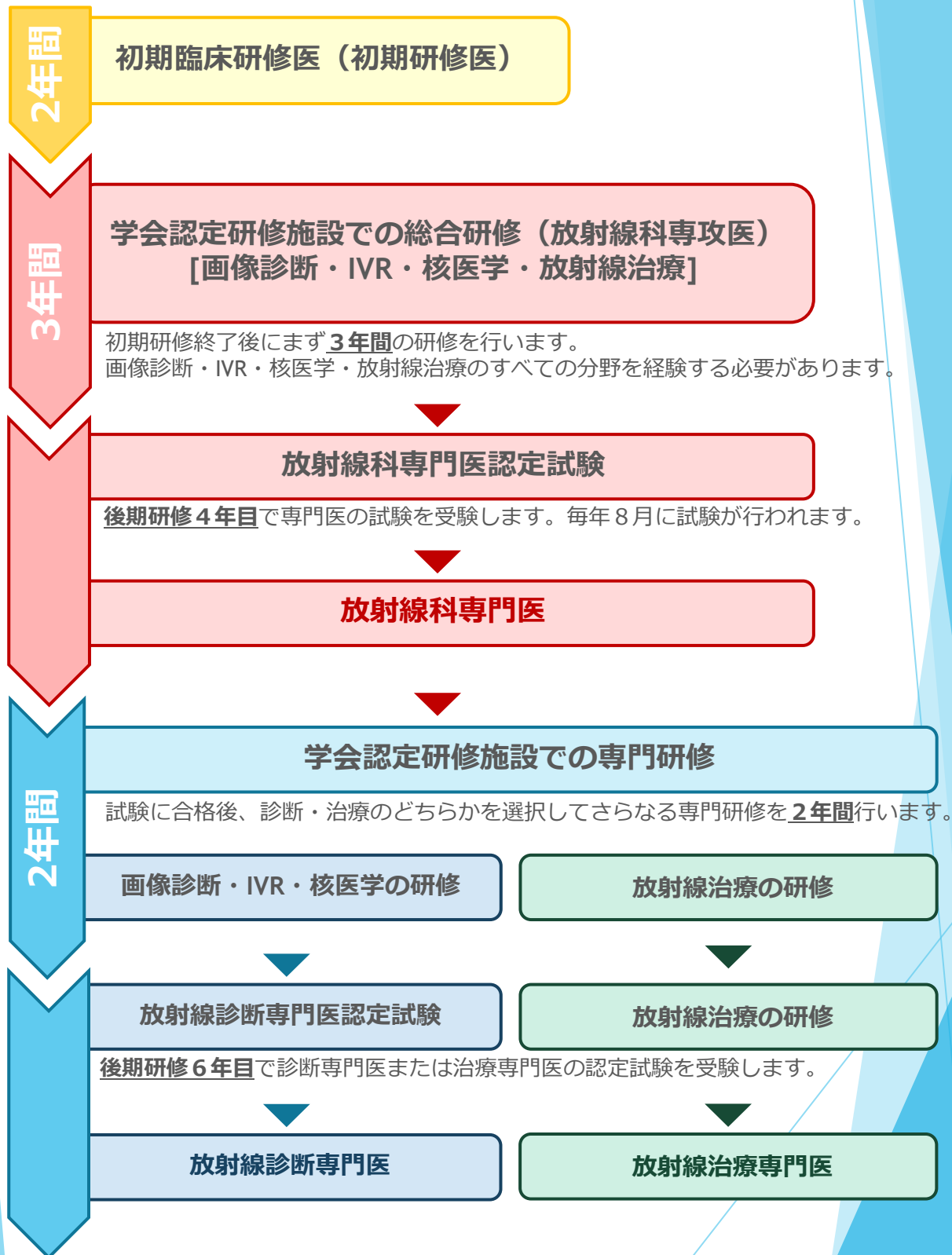


放射線診断/治療専門医への道 (日本専門医機構認定専門医)



放射線科の診断専門医、治療専門医は読影管理加算や治療の施設認定に係る資格であり、病院経営にとって**非常に重要で需要の高い資格**となっています。

おきなわ放射線科専門研修プログラム

- 研修には以下の3コースが設定されています。

コース	専攻医1年目	専攻医2年目	専攻医3年目	専攻医4年目
A	琉球大学病院	関連病院	琉球大学病院/ 関連病院	・ 8月に専門医試験 ・ 4年目以降は、サブスペシャリティを考慮した研修を行う（診断・IVR・核医学・治療）
B	関連病院	琉球大学病院	琉球大学病院/ 関連病院	
C	琉球大学病院 （大学院・臨床）	琉球大学病院 （大学院・臨床）	関連病院 （大学院・臨床）	

- ▶ 状況に応じてコース中断・再開、変更などに対応しています。
- ▶ 関連病院は県内外に複数あり、基本的には1年単位で異動があります。

● 経験すべき検査・読影・治療法

- ▶ 専攻医は放射線科専門医としての知識・技能を習得するために、一定数以上の症例を経験する必要があります。これを満たせるように研修プログラムを組んでいます。
- ▶ それ以外に学会への入会、研修会への参加、学会発表、論文執筆が受験の要項となっています。これらの必須事項もしっかりとクリアできるようにサポートします。

放射線科専門医試験受験のための必要症例数

単純X線	400例	MRI	300例
消化管X線	60例	核医学(RI)	50例
US	120例	IVR	30例
CT	600例	治療	30例

専門医取得のために必要なこと

- ・ 日本医学放射線学会への入会
- ・ 学会の定める研修会への参加
- ・ 放射線学会での発表経験
- ・ 論文執筆（共同著者でも可）

● 専攻医ローテーション（参考）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目①	CT/MR	CT	MR		RI/XP			IVR/US/CT			治療/IVR	
1年目②	CT/MR	MR	CT		IVR/US/CT			治療/IVR			RI/XP	
1年目③							関連病院					
2年目①		IVR/US/CT			治療/IVR			RI/XP			MR	
2年目②		RI/XP			MR				関連病院			
2年目③							関連病院					
3年目①		治療/IVR			CT/MR/RI			CT/MR/RI			CT/MR/RI	
3年目②			関連病院					CT/MR/RI			IVR/US/CT	
3年目③							関連病院					

- ▶ 大学病院の研修では3ヶ月毎に各部門をローテーションします
- ▶ 各年度のプログラム専攻医の人数に応じて、ローテーション期間が変更になる場合があります
- ▶ RI・治療は大学病院でのみ履修可であり、大学病院での研修中に必ずローテーションします
- ▶ 2年目後半以降は月に1~4回の関連病院への読影診療応援業務が加わります

放射線診断専門医

皆さんの研修を応援しています！

放射線診断部門では画像を通して、全身のあらゆる疾患を経験することが可能です。放射線診断専門医が”Doctor’s Doctor”と呼ばれるのは、全身の画像を隈なく評価することにより臓器別の専門の枠を超えて各科と連携して診断に寄与することができるからであり、非常にやりがいのある部門です。

琉球大学病院は沖縄県唯一の大学病院であり、また隣県がない島嶼県という特徴からも県内の多種多様な疾患を抱えた患者様が来院されます。百聞は一見に如かずとの諺がありますが、画像診断医として成長するためには稀な疾患も含め多種多様な各疾患の実際の症例画像やその経過にどれだけ触れることができるかが非常に大切であり、画像診断の研修において、まさに当院はそれが叶う環境と言うことができます。また、大学病院と関連市中病院をローテートすることにより、市中病院で多い急性腹症などのいわゆるcommon diseaseや沖縄県特有の地域性のある疾患についても万遍なく豊富に経験することができます。当科では臨床医としての研修のみではなく各科と連携して最新画像技術を用いた臨床研究活動にも力を入れており、毎年のように複数の大学院生が学位を取得しています。

南国の太陽の下、臨床力、研究力ともに磨くことができる琉球大学放射線診断科で一緒に放射線科診断専門医を目指しませんか。

放射線診断専門医試験受験のための必要症例数

単純X線	400例	MRI	1000例
消化管X線	40例	核医学(RI)	60例
US	50例	IVR	40例
CT	1500例		

専門医取得のために必要なこと

- ・放射線専門医の資格
- ・学会の定める研修会への参加
- ・放射線学会での研究発表
- ・論文発表



初期研修修了

後期研修
3年間

放射線科専門医
(4年目)

サブスペ研修
(診断)
2年間

放射線
診断専門医
(6年目)

放射線治療専門医

皆さんの研修を応援しています！

放射線科の専門医制度は2階建てになっており、最短では放射線科入局後4年（卒後6年）目に放射線科専門医試験、放射線科入局後6年（卒後8年）目に放射線治療専門医試験を受験できます。はじめの専門医資格である放射線科専門医の試験では画像診断分野からの出題が大部分を占めています。また実際に放射線治療の計画はCTやMRIをベースに行うため放射線治療医にもある程度の画像診断の知識は不可欠です。そのため当科では、最初の2年間は大学病院や市中病院で主に画像診断領域の研修を行っています。その後は本格的に放射線治療業務を主とした後期研修を当院または関連の市中病院で進めていくこととなります。琉球大学病院では、頭頸部癌、乳癌、前立腺癌、婦人科癌、中枢神経腫瘍、肺癌、食道癌、肝・胆・膵癌、直腸癌、皮膚癌、骨軟部腫瘍、血液腫瘍、小児がん、良性疾患（ケロイド）など様々な腫瘍に対する放射線治療を根治から緩和まで広く行っており、多くの症例を経験できます。子宮頸癌や前立腺癌に対する小線源治療、骨髄移植の前処置としての全身放射線治療（TBI）など、沖縄県内では当施設のみで行っている治療もあります。放射線科が病棟を有しているため放射線治療中の患者の経過観察や、ケアや副作用への対応などもより詳細に学ぶことができます。関連の市中病院では、大学病院とは異なる疾患構成や放射線治療装置を用いた放射線治療を経験することができます。大学院への進学をサポートや、研究にも積極的に取り組んでいます。臨床研究だけでなく、他の講座と協力して癌のゲノム解析などの基礎研究も行っています。

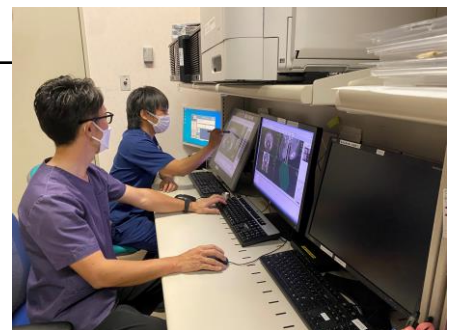
放射線治療専門医試験受験のための必要症例数

部位別放射線治療経験症例数		放射線治療技術研修	
1-4	200例	1-3	30件
1. 頭部/頭頸部	30例	1. 高精度放射線治療	10件
2. 胸部	30例	2. 密封小線源治療	5件
3. 腹部/骨盤部	30例	3. 特殊治療	ノルマなし
4. 四肢・皮膚・他	ノルマなし		



専門医取得のために必要なこと

- ・放射線専門医の資格
- ・学会の定める研修会への参加
- ・放射線学会での研究発表
- ・論文発表



初期研修修了

後期研修
3年間

放射線科専門医
(4年目)

サブスペ研修
(治療)
2年間

放射線
治療専門医
(6年目)

放射線カテーテル治療専門医

皆さんの研修を応援しています！

琉球大学病院は日本IVR学会認定修練施設であり、放射線科診断専門医を取得したのちに当院で所定のカリキュラムを基にした2年以上の臨床経験を積むことで、放射線カテーテル治療専門医を取得することができます。

※従来の学会認定IVR専門医から専門医機構認定に変更となった。2022年秋に応募し、2023年より専門研修開始し、専門医試験は2024年秋の実施予定。

※放射線科以外の専攻医が専攻する学会認定の「救急IVR認定医（カリキュラムは救急IVRに特化）」とは区別されるようになる。

【当科で経験できるIVR】

消化管出血・咯血・産科出血・外傷性出血等に対する止血術

内臓動脈瘤に対する塞栓術

胃静脈瘤、肝性脳症に対する塞栓術（B-RTOなど）

血管奇形に対するIVR治療

（肺AVFに対する塞栓術、体表や四肢の静脈奇形に対する硬化療法など）

多血性腫瘍に対する術前塞栓術

腫瘍に対する動注化学療法、動注化学塞栓療法

動注化学療法におけるリザーバー留置術

術後や悪性腫瘍による血管狭窄に対する血管拡張術・ステント留置術

大動脈ステントグラフト留置後のエンドリークに対する塞栓術

子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術

副腎静脈血サンプリング

CTガイド下生検・ドレナージ

専門医取得のために必要なもの

（参考・変更になる可能性あり）

- ・放射線診断専門医の資格
- ・学会が認定した修練施設において、2年以上のIVRの修練
- ・第一助手として施行したIVR 200例の一覧
- ・IVRに関する学術発表ならびに学術論文の一覧

※旧学会認定のIVR専門医の申請資格を参考にしています



初期研修修了

後期研修
3年間

放射線科専門医
(4年目)

サブスペ研修
(診断)
2年間

放射線
診断専門医
(6年目)

IVR
専門研修
1年間

放射線カテーテル
治療専門医
(7年面)

核医学専門医・PET核医学認定医

皆さんの研修を応援しています！

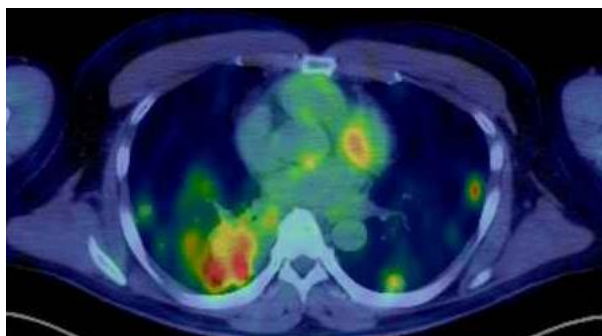
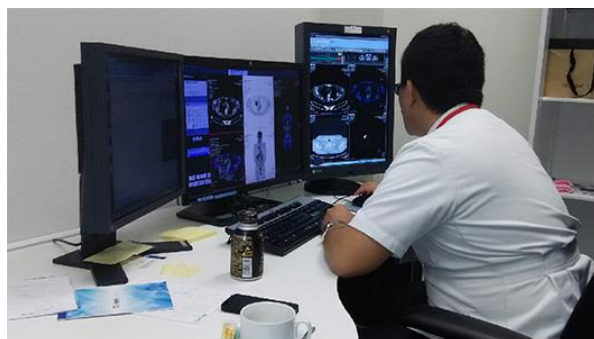
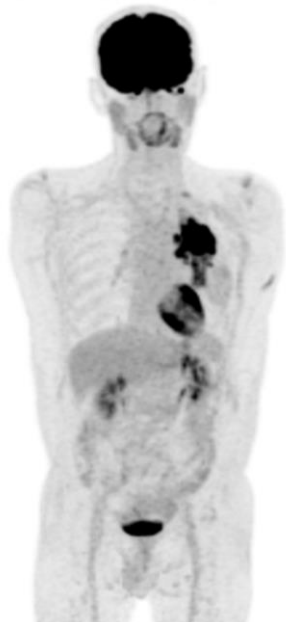
琉球大学病院は日本核医学会専門医教育病院に認定されており、当院で所定のカリキュラムによる核医学診療並びに放射性物質安全取扱いの基礎事項の研修を行うことで核医学専門医・PET核医学認定医を取得することができます。当院では豊富な種類の核医学検査（FDG-PET含む）やアイソトープ治療を実施しており、また沖縄県内唯一のアイソトープ治療専用病棟を有しており、充実した研修を行うことができます。

核医学専門医：専門医取得のために必要なもの

- ・日本核医学会の正会員であること。
- ・医師国家試験合格後6年以上経過していること。
- ・医師としての臨床経験が初期臨床研修期間の2年間を含んで6年以上あること。
- ・教育病院において、指導担当医の指導で所定のカリキュラムによる核医学診療並びに放射性物質安全取扱いの基礎事項の研修歴が5年以上あること。
- ・研修40症例の一覧

PET核医学認定医：専門医取得のために必要なもの

- ・日本核医学会会員であること
- ・核医学診断の経験を3年以上有すること。
- ・日本核医学会春季大会で開催されるPET研修セミナーあるいは日本核医学会が特に認定するPET研修セミナーに1回以上参加するとともに、日本核医学会が実施するPET核医学認定医試験を受験し合格すること。



初期研修修了

後期研修
3年間

放射線科専門医
(4年目)

サブスペ研修
(診断・治療)
2年間

核医学専門医
(7年目)

医学博士号

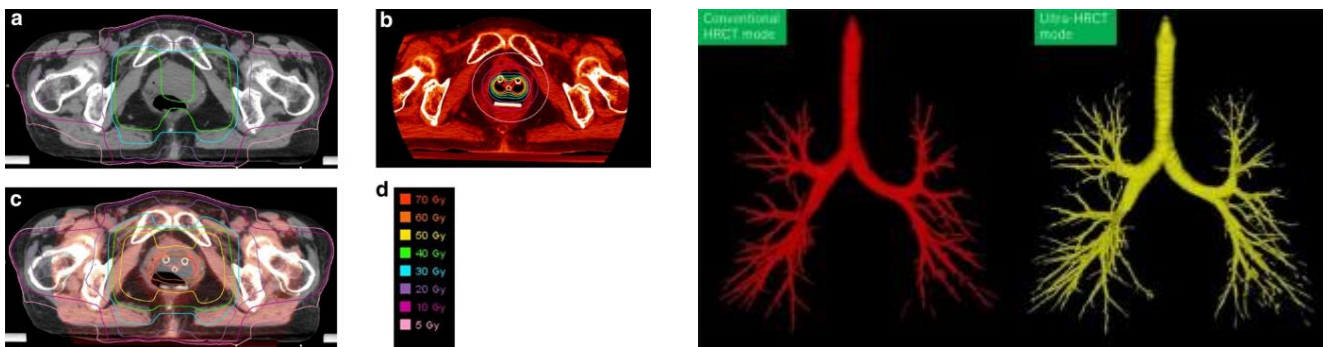
皆さんの研修を応援しています！

琉球大学大学院医学研究科は、近年の医学・医療のダイナミックな変化に対応できる自己改新力と生涯持続力を持った優れた人材を育成することを目的としています。社会人大学院生が受講しやすいよう夜間に講義を実施しているほか、DVD等による講義の受講も可能にしています。

放射線診断治療学講座では西江昭弘教授を指導教員として、放射線診断・治療の最先端の技術・知識を臨床応用した研究に取り組んでいただきます。研究の組み立てといった基本から、データの収集・解析、結果の解釈、研究論文の執筆まで終始一貫して丁寧に指導を行います。

【放射線診断治療学講座での研究指導内容】

- ・ CT、MRI等の各種画像診断法による新しい診断法の開発
- ・ コンピュータによる画像診断の精度向上
- ・ 腫瘍の放射線治療効果の先行因子の探索
- ・ 新しいIVR手技による腫瘍治療法の開発
- ・ 悪性腫瘍のテーラーメイド治療を目指した研究



学位論文テーマ（2017年～2021年）

学位取得時
医学部卒業年数

原発性アルドステロン症患者に対する副腎静脈血サンプリング検査による片側診断における最適な評価項目の検討	14年
子宮頸癌に対するCTに基づく画像誘導小線源治療：線量一体積パラメータと臨床アウトカムの相関	6年
産後出血、流産後出血に対する子宮動脈塞栓術：術後合併症、妊孕能に与える影響についての後方視的研究	12年
胸部における成人T細胞白血病/リンパ腫病変のCT所見：臨床病型の違いを中心に	16年
肺癌のCTラジオミクス解析：腺癌からの扁平上皮癌の分化、FDG取込と相関研究	7年
子宮頸がんに対する根治的放射線療法後の骨折を予測する因子に関する研究	7年
超高精細CTにおける気管支自動抽出能の検討：1024マトリクスと0.25mmスライス厚を用いた画像化による進歩	12年

医学部卒業後

...

大学院
4年間

大学院
修了

医学
博士号